記録

## 

なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

# Collecting and sampling records of stranded finless porpoises (Neophocaena phocaenoides) in the Fujimae mudflat, Nagoya, central Japan

Keiko SONE Tatsuya NORO

Nagoya Biodiversity Center, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

### 要旨

2020年5月24日に名古屋市港区にある藤前干潟で、1頭のスナメリ(Neophocaena phocaenoides)の漂着個体が発見されたため、なごや生物多様性センターに収容して解剖するとともに、全身骨格標本を作製した。この個体は上顎先端から肛門中央までの長さが98 cm、体重が33 kgの雌であった。また、胃内容物としてシバエビ(Metapenaeus joyneri)とアナゴ亜目(Congroidei)の一種が検出された.

#### はじめに

スナメリ(Neophocaena phocaenoides)は、日本を含むアジアの沿岸海域に分布する小型のイルカである。伊勢湾・三河湾はスナメリの主要な生息海域の一つであり(Shirakihara et al., 1992), 2000年に実施された調査では同海域における生息数は約3,700頭と推定されている(吉岡ほか, 2002). 伊勢湾・三河湾の沿岸部には名古屋港や四日市港などの大規模な貿易港が存在することに加えて、都市部を流れる河川が多数流入する水域であることから、沿岸性が強いスナメリの生息にとって、これらの人間活動の影響による生息環境の悪化や生息数の減少が懸念されている(野呂, 2015; 子安・織田, 2020). 本種は、愛知県版レッドリスト 2020では「準絶滅危惧種」(子安・織田、2020),名古屋市版レッドリスト 2020ではよりランクの高い「絶滅危惧IA類」に指定されている(名古屋市環境局環境企画部環境企画課, 2020).

今回, 名古屋市港区にある藤前干潟で, 1頭のスナ

メリが死亡して漂着しているのが発見された。名古屋市では、スナメリは冬季に名古屋港内で比較的頻繁に目撃されるものの(齋藤ほか、2014)、藤前干潟での目撃は年に数回程度にとどまっており、死亡個体の漂着は極めて稀であるという(西部、私信)。そこで、この個体をなごや生物多様性センター(以下、センター)で収容し、解剖および標本化を行ったので、これについて報告する。

## 発見から収容までの経緯

2020年5月24日に名古屋市港区にある「藤前活動センター」に面した藤前干潟の南陽海岸堤防に,1頭のスナメリが漂着しているのが発見された(図1).発見時は満潮時(17時30分頃)で,干潟の石の隙間に挟まっている状態であった(図2a)のを,発見者(戸苅辰弥氏)によって引き揚げられた.漂着があった翌日,藤前活動センターを管轄する中部地方環境事務所の酒向貴子氏から,「スナメリの漂着個体があるが,センターで引

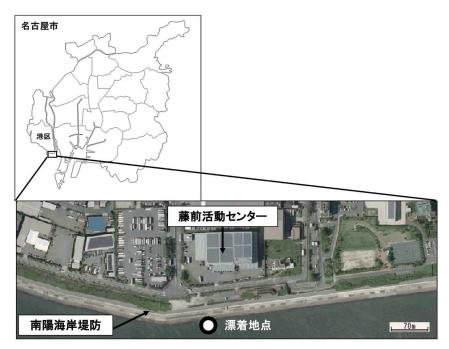


図1. スナメリの漂着場所(丸印の地点).

き取ることは可能か」という問い合わせがあった。これを受けて著者らが現場に出向き、個体を車で運搬してセンターに持ち帰り、大型冷凍庫に収容した。なお、スナメリは「水産資源保護法」の対象種であるため、愛知県農業水産局水産課を通じて水産庁への漂着報告と学術所持の申請届出を行った。

#### 解剖および標本化

同年6月9日、スナメリの解剖をセンターで行った. 解剖には、著者らを含む11名が参加した.新型コロナウイルス感染症の影響が懸念される状況下であったため、換気が十分に行き届いた半屋外の施設で、白衣もしくは雨合羽、マスク、手袋を全員が着用した状態で作業に臨んだ.スナメリの表面には多数の傷があり、皮膚の剥離も認められた(図2b).これらは漂着中に岩場などに接触してできた外傷であると推察された.また、この個体では、尾鰭が基部付近で欠損していたが(図2b)、その表面には治癒した痕跡(皮膚の再生)が認められたことから、尾鰭を失った後もある程度の期間は生存していた可能性が高いと考えられた.環境省環境保健部環境安全課環境リスク評価室(2002)を参考にし、外部形態計測を行った(図3).その結果を表1に示し





図 2. 漂着したスナメリ.

- (a) 干潟の石の隙間に挟まっているスナメリ(写真 撮影:戸苅辰弥氏).
- (b) 干潟から引き揚げられたスナメリ. 尾鰭を基部 付近で欠損している (写真矢印).

b



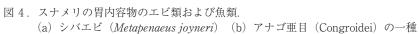
図3. スナメリの外部形態計測の様子. 巻尺で胴周を計測している.

表 1	7.1	. 2 1	」の外部形能計測値
*	ムナ	XΙ	) (/ ) タト台いガス見ら言丁7HII1旧

	計測部位	
1	上顎先端一口角後端	11cm
2	上顎先端-呼吸孔中央部	16cm
3	上顎先端一眼開口部	17cm
4	上顎先端-胸鰭基部	30cm
5	上顎先端-生殖孔中央	93cm
6	上顎先端一肛門中央	98cm
7	胸鰭前縁長	26cm
8	胸鰭後縁長	20cm
9	胸鰭最大長	16cm
10	胴周 (肛門位置)	48cm
11	体重	33kg

※1~9は右側で計測.





た. 性別は、生殖孔と肛門の距離が近接し、連続した溝に開口していたため、雌と判定された. 開胸、開腹して各種臓器の観察を行ったが、消化管を除く臓器は腐敗が著しく、観察・計測が困難であったため、死因となるような所見を発見することは出来なかった. 消化管については、全腸長の計測と胃内容物の観察を行った. 全腸長は11.5 mであり、胃内容物からはエビ類(図 4 a)および魚類(図 4 b)が 1 個体ずつ検出されたため、写真撮影をした後に70%エタノール液に漬けて保管した. また、筋組織を採取し、DNA分析用に無水エタノール液で保存し、センターで保管した.

観察・計測の終了後、部位ごと(頭部、前肢(右/左側)、肋骨、肋骨を除く胸部、腹部と尾部)に分割して除肉し、それぞれの部位を記した耐水ラベルともにネットに入れ、この日は作業を終了した。作業に要した時間

は2時間半程度であった.後日,ネットに分割して収めた部位を,八谷・大泰司(1994)にならって電気煮込み鍋を使って晒骨し,全身骨格標本を作製した(図5).

#### 胃内容物の同定

胃内容物の中から比較的形態が残っているエビ類 1 個体(図 4 a)と魚類 1 個体(図 4 b)について同定を試みた。エビ類(頭胸甲長:24.1 mm)については、尾節に可動棘が認められず、頭胸甲および生殖器の形態的特徴からクルマエビ科ヨシエビ属のシバエビ (Metapenaeus joyneri) と同定された。また、魚類(全長:25.0 cm)については、消化が進んでいたが、体形が細長く紐状で背鰭と臀鰭の発達していることや頭部の形状などからウナギ目アナゴ亜目のアナゴ科またはウミヘビ科の一種と思われたが、尾部欠損などがあり確定は



図 5. スナメリの全身骨格標本.

できなかった.また,この個体には,背鰭起部より前方から背鰭が始まる,背鰭と臀鰭の鰭条に分節がないなどの特徴が認められたが,これ以上の同定はできなかった.シバエビは内湾の泥底に生息する中型のエビ類で,有明海産のスナメリの胃内容物から検出されており(濱野,2002),またアナゴ科やウミヘビ科の魚類についても,有明海・橘湾で行われた食性調査(Shirakihara et al.,2008)で報告されていることから,両者はともに伊勢湾地域でもスナメリの餌資源の一つとなっていることが示唆された.これらの胃内容物は,70%エタノール液浸標本としてセンターに収蔵されている.

#### 最後に

今回漂着したスナメリの解剖や胃内容物の分析から得られた知見は、この海域におけるスナメリの生活史の解明に役立つものと考えられる。また、骨格標本については、センター内あるいは地元の展示イベント等で使用し、名古屋市という都市部にもスナメリという海棲哺乳類が生息していることを普及啓発するための資料として活用していきたい。

本報告に先行して、今回のスナメリの解剖や骨格標本の作製の様子を、センターのホームページ(なごや生きものライブラリー:https://ikimono.city.nagoya.jp/)内の「生きものコラム」に掲載して情報発信を行ったため、こちらもご一読いただければ幸いである.

#### 謝辞

漂着個体を収容するにあたって. 環境省中部地方環境 事務所の酒向貴子氏と玉木大悟氏にお世話になりまし た. また, NPO法人藤前干潟を守る会の戸苅辰弥氏には, 漂着個体を回収して頂くとともに、漂着時の写真をご提 供して頂きました. 解剖に参加して下さった名古屋自然 保護官事務所の西部理恵氏と山﨑陽子氏, NPO法人藤 前干潟を守る会の亀井浩次氏, 神 武氏, 間部裕子氏, 名古屋市野鳥観察館の野村朋子氏, 名城大学の西村祐輝 氏,松山直樹氏,坂本珠実氏にも感謝いたします. 宇都 宮大学の栗原 望博士には、スナメリの解剖方法につい てご教示頂きました。また。名古屋港水族館の神田幸司 氏には、名古屋港のスナメリの生息状況についてご教示 頂きました. 胃内容物の分析結果をご提供して頂くとと もに、有益なご助言を頂きました名古屋港水族館の中嶋 清徳氏と渡辺格朗氏にも深くお礼申し上げます。なお本 活動は、「なごや生物多様性保全活動協議会・動物調査 と保全対策部会」の支援を受けました.

#### 引 用 文 献

- 八谷 昇·大泰司紀之. 1994. 骨格標本作製法. 北海道大学図書刊行会, 札幌. 129pp.
- 濱野大作. 2002. 有明海鹿島沖における竹波瀬漁で捕獲されたスナメリ. 佐賀自然史研究, 8:59-60.
- 環境省環境保健部環境安全課環境リスク評価室. 2002. 野生生物のダイオキシン類蓄積状況等マニュアル. 環境省環境保健部環境安全課環境リスク評価室, 東京. 205 pp.
- 子安和弘・織田銑一. スナメリ. 愛知県環境局環境政策部 自然環境課(編). 愛知県の絶滅のおそれのある野生 生物 レッドデータブック2020 - 動物編 - , pp. 89. 愛知県環境局環境政策部自然環境課. 名古屋.
- 名古屋市環境局環境企画部環境企画課. 2020. 名古屋市版 レッドリスト 2020. 名古屋市環境局環境企画部環境 企画課,名古屋. 26pp.
- 野呂達哉. 2015. スナメリ. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課(編). 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック2015 動物編 -, pp.44. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋.

- 齋藤 豊・堂崎正博・祖一 誠. 2014. 名古屋港に生息するスナメリの調査. 海洋と生物, 36:29-35.
- Shirakihara, K., H. Yoshida, M. Shirakihara, and A. Takemura. 1992. A questionnaire survey on the distribution of the finless porpoise, *Neophocaena phocaenoides*, in Japanese waters. Mar. Mamm. Sci., 8:160-164.
- Shirakihara, M., K. Seki, A. Takemura, K. Shirakihara, H. Yoshida, and T. Yamazaki. 2008. Food habits of finless porpoises *Neophocaena phocaenoides* in western Kyushu, Japan. J. Mamm., 89: 1248-1256.
- 吉岡 基・篠原正典・喜多祥一. 2002. 伊勢湾・三河湾調査. 環境省自然環境局生物多様性センター(編). 海棲動物調査「スナメリ調査」報告書, pp. 27-52. 生物多様性センター, 富士吉田.